

2 自分の思いをうまく話せない子どもへの手立ての例

- A 要因として、PDDやコミュニケーション上の課題があり、ことばの理解に対する援助が必要なケース

言いたいことを書いてまとめさせる。(言いたいことを5W1Hに整理する支援をする。会話をパターンで学ばせる)

- B 要因として、場を読むことや人との関わりが困難なケース

場面や相手との関係性に気付かせる。

- C 要因として、緘黙傾向があるケース

心理面でのラポート関係を作り、安心して話せる相手との会話経験を積ませる。

- D 要因として、PDDがあり、ことばの理解に対する援助が必要なケース

学習中注意がそれている場合、声かけ等により注意を向けさせ、ポイントを要約して伝える。
課題の中に、その子の名前を入れたり、特に大事なところは名指しして注意を引く等の工夫をする。
実物や実際の動作、写真・絵などをことばと結びつける。

- E 要因として、短期記憶力に課題があり、聞く力を育てることが必要なケース

板書などの視覚的援助
ポイントをメモさせる習慣
分からないことは、必ず聞き返すように習慣づける。